

全小・社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都台東区池之端 2-1-22
・発行人 吉 藤 玲 子
・編集人 澤 田 純

指導を充実させるための

評価の在り方

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小 倉 勝 登



る。

「評価したことを指導に生かす」

「評価したことを指導に生かす」ことは、基本的に毎時間行なう。子供の学習状況を評価規準に照らして丁寧に生かすことで、子供の学習改善につなげていく。

子供一人一人の学習状況を把握して、指導に生かすためには、評価規準に照らして、「どのような評価資料から、どのような具体的な姿を捉えるのか」という評価方法を明確にしておく必要がある。

そこで、学習状況を具体的に捉えるために評価規準を設定する時には、例えば、

ノートの記述内容から「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

というように、「（評価資料）から、『しているか』を評価する」という記述でまとめることが考えられる。『しているか』という姿をあらかじめ具体的に想定しておくことで、「努力を要する」すなわち「していない」と評価せざるを得ない子供への指導の手立てが明確になるからである。

「評価したことを記録に残す」

「評価したことを指導に生かす」ことは毎時間行なうが、単元を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で、さらに、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況を捉えられる段階で評価したことを記録に残す必要がある。つまり、特に指導した結果としての評価資料を全ての児童から収集する場面を指導と評価の計画に重点的に設定することが大切である。その場面がつまり「評価したことを記録に残す」場面である。

小学校社会科の評価規準は、

単元における観点ごとの評価規準を①と②に分けて二つずつ設ける形を基本としているため、自ずと評価規準②で評価資料を集めることが多くなる。それは、

「指導と評価の一体化」の観点から、単元の目標に沿って指導した結果が表れる場面と考えられるからである。そのため、評価資料を集めてABCを定める場面は、単元の後半に多くなると思われることができる。

ただし、例えば単元によって「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価規準②が設定されない場合もあり、その場合は評価規準①で評価資料を集めることも考えられる。他の観点においても、「評価資料は必ず評価規準②で集め、評価規準①では集めない」などと固定的には考えず、柔軟に計画することが大切である。単元の学習全体を見据えて、三つの資質・能力を意図的・計画的に養うよう指導し、指導した結果を評価資料とすることを基本とする。単元の前半において評価資料を集める場合には、目標に沿って丁寧に指導した上で、その結果を評価資料とする必要がある。

評価場面の精選

今回の学習評価の改善では、「学習評価場面の精選」が求められている。「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成三十一年一月二十一日中央教育審議会）では、「毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行う」と示されている。そこで、基本的に一時間一観点で学習状況を捉えるようにし、単元全体を通して全ての観点で学習状況を捉えられるように構成することになる。つまり、授業者が、単元の評価規準を基にして、どの時間に、どの観点で子供の学習状況を見取るのか、単元を通してデザインする必要がある。

学習評価は、日々の授業の中で子供の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要である。記録を集めることに終始して、必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価をするようなことがないようしなければならぬ。あくまでも学習評価とは、指導したことを評価することである。

神奈川大会報告

全国小学校社会科研究協議会
神奈川大会実行委員長

梅田 比奈子



新型コロナウイルス感染拡大によって、先の見えなくなった二〇二〇年、様々な研究会やイベントが中止になったり、オンラインでの開催になったりしました。全小社研神奈川大会開催についても、

何度も判断を迫られました。その際、私たちが基本として考えたのは、次の二つでした。「中止」ということでなく、最善の安全策を考え、工夫して行いたい。「子どもの姿」で語りたい。そして、吉藤会長とも話し合い、決定したのが、ビデオによる授業提案と半日開催でした。

全体会を事前に撮っておき、会場校で同じものを流しました。また、四会場それぞれの方法で、授業のデータを映像で記録し、提案しました。学年別課題研究会の提案者の方々には、当日使う予定だったパワーポイントや紙面で書き切れなかった詳しい

資料等を送っていただきました。そして、それをCDにし、少しでも提案の趣旨が伝わるようにと考えました。当日は、紀要のみの方約九十名を含めると約六百七十人の参加をいただき、充実した研究会となりました。開催県を代表して、皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

今大会では、研究主題を「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育」学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」としました。学んだことを社会や生活に生かし、自らの生き方や未来を創造していくためには、育成された資質・能力や人間らしい感性を駆使して、自らと向き合い、自らの生き方を問い続けていくことが大切です。本大会では、子どもたち自身が学習に対して見通しをもつて学習を進めるとともに、主体的に学びを進め、学んだことを社会や生活に生かす学習過程を提案していきたいと考えました。また、学習過程に「単元を見通す学習問題」と「本気の学習問題」を位置付け、子ども

たちが見通しをもって学習に取り組む、社会的事象の意味に迫る授業づくりや単元づくりに取り組みました。研究内容は、①子どもの予想と見通しを大切に

【各会場校での発表】

今年度の大会は、先に記したように、半日開催となりました。各会場校で行われた全体会では、全体提案、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官小倉勝登先生の指導講評をいただき、続いて各会場校での研究内容の提案、講師の先生方の指導講評をいただきました。このような形になったことで、全体の提案と会場校の研究のつながりを強く感じる事ができたように思います。

会場校は、第一会場 横浜市立西富岡小学校 第二会場 横浜市立稲荷台小学校 第三会場 横浜市立山元小学校 第四会場 川崎市立大谷戸小学校の四校です。それぞれの会場校ですべて異なった形でのビデオでの授業提案を行い、ご指導をいただきました。第一会場は、全

学級の授業をビデオとり、各教室で見た後、学年で研究会を行いました。全体会指導講評は、国士舘大学体育学部教授 澤井陽介先生。第二会場では、各学

年一学級の授業を子どもにフォークスを当てたり、全体を撮ったりする等、三台のカメラで撮影し、三つの大きな画面で、同時に映して提案しました。全体会指導講評は、國學院大学人間開発学部教授 安野 功先生。第三会場では、各学年一学級の授業を当日の午前中に行い、ビデオ撮影して研究会を行いました。学年の講師の先生方には、直接授業を見ていただきました。全体会指導講評は、横浜国立大学教育学部教授 重松 克也先生。第四会場では、各学年五から六学級すべての学級の授業を撮影し、それぞれの提案部分をみんなで、公開しました。全体会指導講評は、総合初等教育研究所 参与 北 俊夫先生。各会場ともに講師の先生方から、研究の価値づけや次につながるご指導を賜りました。そして、どの会場も子どもたちの姿をもとにした、活発な意見交換が行われました。

学年別課題研究会では、六十本の提案が集まりました。新学習指導要領全面実施の年ということもあり、今後の参考にな

る提案ばかりでした。神奈川では、この提案から学んだことを研究部員が一つずつまとめ、報告書に載せていく予定です。

【大会を終えて】

三月から五月までの休校、そして、分散登校。各学校で、全小社がどうなるのか、もつと言え、授業自体が進めていけるのか、不安のたくさんあったスタートでした。でも、「このような時だからこそ、社会科が大事だ。」という思いを込めて、大会開催に向かいました。安全対策や参加人数等、様々なことを考えましたが、関わってくださった皆様のおかげで充実した神奈川大会になりました。本当に皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。最後にアンケートの中から、感想を紹介させていただきます。「全体会で新学習指導要領の改訂のポイントについて、分かりやすく解説していただいた後、単元を通した授業デザインの作り方を理解することができ、大変勉強になりました。」「様々な問題もある中で、とても学びの多い会となりました。視点も明確で、とてもよかったと思います。」

第五十九回

全国小学校社会科研究協議会研究大会

大阪大会のご案内

大阪府小学校社会科研究会会長
大阪市立天下茶屋小学校長 村上 昌志

一 大阪大会のご案内

大阪府小学校社会科教育研究会では、令和三年十月二十八・二十九日に「第五十九回全国小学校社会科研究協議会大阪大会」を開催いたします。令和三年度府社研大会担当の大阪府が中心となり、研究主題を「確かな知識をもとに、よりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習」として、新学習指導要領のもと、「よりよい社会を創造できる子ども」をめざす子ども像に掲げ、準備を進めています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、社会全体が不安定になる中、一人一人が自ら進んで、また、多様な他者と協働しながら問題解決を図っていくことができます。求められています。

大阪大会がどのような形で実施されるかは未確定ですが、こ

のような時だからこそ、これらの社会を担う子どもたちに求められる力である「未来を切り拓く力」を育てるための研究実践を力強く進めていく決意であります。

二 大会の概要

① 大会主題
確かな知識をもとに、よりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習

② 研究内容

大阪府小学校教育研究会社会部(以下「市社研」と略す)は、昨年度まで『社会と進んで関わり、未来を切り拓く社会科学習』と研究主題を設定し、子どもを取り巻く社会状況や子どもの実態を踏まえ、生涯にわたって必要な知識・技能を身に付け、自らの可能性を最大限に発揮すると共に、他者と協働しながら、社会的変化や様々な困難を乗り越える力、溢れる情報から真に必要な情報だけを活用する力を子どもに身に付けさせるべく実践を重ねてきました。その上で今年度は、その先にある「よりよい社会」を創造でき

る子どもを育てることをめざします。その礎となるものが「確かな知識」です。

これまで市社研では、「確かな知識」を用いた知識、具体的知識、概念的知識の三層により構造化してきました。本年度より、そこに社会的事象の意味、因果関係などの理解(深い学び)を経て一人一人に醸成される知識を「価値的知識」として「確かな知識」の再構築を図っています。

③ 日時・会場

第一日目 十月二十八日(木)
十三時〇〇分～

十六時四十五分

＜全体会＞

大会主題提案・指導講評・記念講演

会場予定 大阪市立中央公会堂

第二日目 十月二十九日(金)

九時三十分～十六時三十分
公開授業・授業研究・指導講評・課題別研究

第一会場 大阪市立野田小学校

第二会場 大阪市立古市小学校

④ 講師

記念講演

総合初等教育研究所 参事 北 俊夫 先生

全体会 指導講評

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登 先生

第一会場 指導講評

国士舘大学教授 澤井 陽介 先生

第二会場 指導講評

國學院大学教授 安野 功 先生

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局長
東京都杉並区立荻窪小学校長

西脇 裕 高

全小社研の諸事業につきまして、各単位団体の理事の皆様や会員の皆様に、日頃よりご理解とご協力をいただきありがとうございます。

コロナ禍の今年度ですが、各事業を工夫しながら進めているところです。十月二十三日には、神奈川大会の午前中に第一〇九回理事会を開催致しました。オンラインによる参加も導入し、無事終了しました。議事につきましては、予定通り承認されました。

一 次年度全国大会の予定

〇第五十九回全国大会大阪大会
令和三年十月二十八日(木)
二十九日(金)

〇令和三年度大会佐賀大会
令和四年一月二十七日(木)
二十八日(金)

二 研究集録第五六集の発行

今年度も個人論文の応募をいただきありがとうございます。

二月末に、文部科学省教科調査官小倉勝登先生に論文審査をお願いし、優秀論文をまとめた研究集録を三月末に刊行し、各単位団体・会員の皆様に配布致します。

三 各地域の動向の作成

各単位団体の組織・事業計画・研究校を調査し、冊子にまとめ、八月に配布しております。各地域の活動の様子を把握していただき、相互に交流が活発になることを期待しています。

待っています。

次年度に向け、三月末より作成作業を始めます、ご協力をお願い致します。

四 会報「全小社研」の発行

会報を年二回発行しています。全小社研の活動が広く全国の会員の皆様に伝わるように努めております。今年度も百四号・百五号を発行致しました。

なお、会報配布については、各単位団体事務局長宛てにお送りします。ご協力をお願いします。

五 ホームページの充実

全小社研のホームページには、各事業、活動の情報を掲載しております。各単位団体での活動の情報も随時掲載し、一層の充実を図りたいと思います。掲載やリンク希望は、事務局までお申し出ください。

六 個人会員の募集

全小社研の諸事業は、各単位団体と個人会員の会費等で成り立っています。社会科教育を一層発展充実させていくために、さらに多くの皆様の個人会員としての参加をお願い致します。

個人会費 年額 一、五〇〇円
郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六二八二五五七
全国小学校社会科研究協議会